

1

次の□にあてはまる適切な数値、または行列を解答欄に記入せよ。

- (1) 1から10までの数字が1ずつ記入された10枚のカードから3枚のカードを同時に取り出す。取り出したカードに記入してある3つの数の最小値を X , 最大値を Y とすると $Y=2X$ となる確率は□(ア)である。また、 $Y<2X$ となる確率は□(イ)である。
- (2) 実数を成分とする2次の正方行列 A の表す1次変換(点の移動) f によって、 xy 平面上の点 $P(1, -1)$ は点 Q に、点 Q は点 $R(-1, 0)$ に、点 R は点 P にそれぞれ移される。このとき行列 A は□ウ, 点 Q の座標は(□エ, □オ)である。

(ア) $\frac{1}{12}$ (イ) $\frac{1}{6}$ (ウ) $\begin{pmatrix} -1 & -1 \\ 1 & 0 \end{pmatrix}$ (エ) 0 (オ) 1

解説

(1) ${}_{10}C_2 = \frac{10 \cdot 9 \cdot 8}{3 \cdot 2 \cdot 1} = 120$ 通り

$Y=2X$ の確率

$(X, Y)=(1, 2)$ の時。なし

$(X, Y)=(2, 4)$ の時。(2, 3, 4) 1通り

$(X, Y)=(3, 6)$ の時。(3, 4, 6), (3, 5, 6) 2通り

$(X, Y)=(4, 8)$ の時。(4, 5, 8), (4, 6, 8), (4, 7, 8) 3通り

$(X, Y)=(5, 10)$ の時。(5, 6, 10), (5, 7, 10), (5, 8, 10), (5, 9, 10) 4通り

$$P(Y=2X) = \frac{1+2+3+4}{120} = \frac{10}{120} = \frac{1}{12}$$

$Y<2X$ の確率

$X=1$ の時。 $Y<2$ なし

$X=2$ の時。 $Y<4$ なし

$X=3$ の時。 $Y<6$ 残り2個は4, 5より2個 ${}_2C_2=1$ 通り。

$X=4$ の時。 $Y<8$ 残り2個は5, 6, 7より2個 ${}_3C_2=3$ 通り。

$X=5$ の時。 $Y<10$ 残り2個は6, 7, 8, 9より2個 ${}_4C_2=6$ 通り。

$X=6$ の時。 $Y \leq 10 < 12$ 残り2個は7, 8, 9, 10より2個 ${}_4C_2=6$ 通り。

$X=7$ の時。 $Y \leq 10 < 14$ 残り2個は8, 9, 10より2個 ${}_3C_2=3$ 通り。

$X=8$ の時。 $Y \leq 10 < 16$ 残り2個は9, 10より2個 ${}_2C_2=1$ 通り。

$X=9$ の時。 $Y \leq 10 < 18$ なし

$X=10$ の時。 $Y \leq 10 < 20$ なし

$$P(Y<2X) = \frac{1+3+6+6+3+1}{120} = \frac{20}{120} = \frac{1}{6}$$

(2) $Q(X, Y)$ とおく。題意より

$$A \begin{pmatrix} 1 \\ -1 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} X \\ Y \end{pmatrix} \cdots \textcircled{1} \quad A \begin{pmatrix} X \\ Y \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} -1 \\ 0 \end{pmatrix} \cdots \textcircled{2} \quad A \begin{pmatrix} -1 \\ 0 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 1 \\ -1 \end{pmatrix} \cdots \textcircled{3}$$

となる。①と③より、

$$A \begin{pmatrix} 1 & -1 \\ -1 & 0 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} X & 1 \\ Y & -1 \end{pmatrix}$$

であり、 $\begin{pmatrix} 1 & -1 \\ -1 & 0 \end{pmatrix}^{-1} = \frac{1}{0-1} \begin{pmatrix} 0 & 1 \\ 1 & 1 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 0 & -1 \\ -1 & -1 \end{pmatrix}$ を右からかけると

$$A = \begin{pmatrix} X & 1 \\ Y & -1 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} 0 & -1 \\ -1 & -1 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} -1 & -X-1 \\ 1 & -Y+1 \end{pmatrix} \cdots \textcircled{4}$$

②より、

$$\begin{pmatrix} -1 & -X-1 \\ 1 & -Y+1 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} X \\ Y \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} -1 \\ 0 \end{pmatrix} \Leftrightarrow \begin{cases} -X - XY - Y = -1 \\ X - Y^2 + Y = 0 \end{cases} \Leftrightarrow \begin{cases} X + XY + Y = 1 \cdots \textcircled{5} \\ X = Y^2 - Y \cdots \textcircled{6} \end{cases}$$

⑥を⑤に代入すると

$$Y^2 - Y + (Y^2 - Y)Y + Y = 1 \Leftrightarrow Y^3 = 1$$

Y は実数なので、 $Y=1$ に限る。このとき⑥より $X=1-1=0$ 。

よって、 $Q(X, Y)=(0, 1)$ これを④に代入すると、

$$A = \begin{pmatrix} -1 & -0-1 \\ 1 & -1+1 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} -1 & -1 \\ 1 & 0 \end{pmatrix}$$

2

a, b は実数で $0 < a \leq \frac{\sqrt{2}}{2}$ とする。関数 $f(x), g(x)$ を

$$f(x) = \log(a^2 + x^2), \quad g(x) = x^2 + b$$

と定める。 xy 平面上の2曲線 $y=f(x), y=g(x)$ の $x \geq 0$ の部分をそれぞれ C_1, C_2 とし、

C_1 の変曲点 P の x 座標を $t(a)$ とする。 C_2 が点 P を通るとき、次の問いに答えよ。

ただし、対数は自然対数である。

(1) (i) C_1 の凹凸を調べ $t(a)$ を a を用いて表せ。また、 b を a を用いて表せ。

(ii) $a = \frac{1}{2}$ のとき、 C_1 の概形を xy 平面上に描け (xy 平面は解答用紙にある)。

なお、 $0.6 < \log 2 < 0.7$ であることを概形を描く際の参考にしてよい。

(2) $0 \leq x \leq t(a)$ をみたす実数 x に対して、 $f(x)$ と $g(x)$ の大小関係を調べよ。

(3) $0 \leq x \leq t(a)$ の範囲で、 C_1, C_2 および y 軸で囲まれた部分の面積 $S(a)$ を

a を用いて表せ。また、 a が $0 < a \leq \frac{\sqrt{2}}{2}$ の範囲を動くとき、 $S(a)$ の最大値と

そのときの a の値を求めよ。

(1)(i) $0 \leq x < a$ のとき、 $f''(x) > 0$ より下に凸 $a < x$ のとき、 $f''(x) < 0$ より上に凸

$$t(a) = a, \quad b = \log(2a^2) - a^2 \quad \text{(ii) 略}$$

(2) $f(x) \leq g(x)$

(3) $S(a) = -\frac{2}{3}a^3 + \frac{4-\pi}{2}a$ $a = \frac{\sqrt{4-\pi}}{2}$ の時最大値 $= \frac{1}{6}(4-\pi)\sqrt{4-\pi}$

解説

(1)(i) $f(x) = \log(a^2 + x^2)$ より、

$$f'(x) = \frac{2x}{x^2 + a^2}$$

$$f''(x) = \frac{2(x^2 + a^2) - 2x \cdot 2x}{(x^2 + a^2)^2} = \frac{-2(x^2 - a^2)}{(x^2 + a^2)^2} = \frac{-2(x+a)(x-a)}{(x^2 + a^2)^2}$$

x	0	...	a	...
$f'(x)$	0	+	+	+
$f''(x)$	+	+	0	-
$f(x)$	$f(0)$	↗	$f(a)$	↘

$0 \leq x < a$ のとき、 $f''(x) > 0$ より下に凸

$a < x$ のとき、 $f''(x) < 0$ より上に凸

変曲点の x 座標は $f''(x) = 0$ を $x \geq 0$ で解いて

$$t(a) = a$$

また、 $f(a) = \log(2a^2)$ であり、 $y = g(x)$ が $(a, \log(2a^2))$ を通るので、

$$\log(2a^2) = a^2 + b \Leftrightarrow b = \log(2a^2) - a^2$$

(ii) $x > 0$ のとき $f'(x) > 0$ なので、 $f(x)$ は単調増加。

$$a = \frac{1}{2} \text{ より、} f\left(\frac{1}{2}\right) = -\log 2$$

よって変曲点は $\left(\frac{1}{2}, -\log 2\right)$ となる。

$f(0) = -2\log 2$ より y 切片は $(0, -2\log 2)$ となる。

よってグラフは右図の通り。

(2) $F(x) = f(x) - g(x)$ とおく。

$$F'(x) = \frac{2x}{x^2 + a^2} - 2x = \frac{-2x(x^2 + a^2 - 1)}{x^2 + a^2}$$

$x > 0$ で $F'(x) = 0$ を解くと、 $x = \sqrt{1 - a^2}$ となる。

$0 < a \leq \frac{\sqrt{2}}{2}$ より、 $a \leq \sqrt{1 - a^2}$ なので、

$0 < x < a \leq \sqrt{1 - a^2}$ で $F'(x) > 0$ ゆえ $F(x)$ は単調増加。

$$F(a) = \log(2a^2) - (a^2 + \log(2a^2) - a^2) = 0$$

よって、 $F(x) \leq F(a) = 0$ よって、 $f(x) \leq g(x)$

(3) $S(a) = \int_0^a \{(x^2 + b) - \log(a^2 + x^2)\} dx \dots \textcircled{1}$

$$\int_0^a (x^2 + b) dx = \left[\frac{1}{3}x^3 + bx \right]_0^a = \frac{1}{3}a^3 + ab = \frac{1}{3}a^3 + a(\log(2a^2) - a^2)$$

$$= a\log(2a^2) - \frac{2}{3}a^3$$

$$\int_0^a \log(a^2 + x^2) dx = \left[x\log(a^2 + x^2) \right]_0^a - 2 \int_0^a \frac{x^2}{a^2 + x^2} dx$$

$$= a\log(2a^2) - 2 \int_0^a \frac{x^2}{a^2 + x^2} dx$$

ここで、 $x = a \tan \theta$ とおくと、 $dx = \frac{a}{\cos^2 \theta} d\theta$

x	0	→	a
θ	0	→	$\frac{\pi}{4}$

であり

$$\int_0^a \frac{x^2}{a^2 + x^2} dx = \int_0^{\frac{\pi}{4}} \frac{a^2 \tan^2 \theta}{a^2 + a^2 \tan^2 \theta} \cdot \frac{a}{\cos^2 \theta} d\theta = a \int_0^{\frac{\pi}{4}} \tan^2 \theta d\theta$$

$$= a \int_0^{\frac{\pi}{4}} \left(\frac{1}{\cos^2 \theta} - 1 \right) d\theta = a \left[\tan \theta - \theta \right]_0^{\frac{\pi}{4}} = a \left(1 - \frac{\pi}{4} \right)$$

よって、

$$\textcircled{1} = a\log(2a^2) - \frac{2}{3}a^3 - \left\{ a\log(2a^2) - 2a \left(1 - \frac{\pi}{4} \right) \right\} = -\frac{2}{3}a^3 + \frac{4-\pi}{2}a$$

このとき、 $S'(a) = -2a^2 + \frac{4-\pi}{2}$ であり、 $S'(a) = 0 \Leftrightarrow a^2 = \frac{4-\pi}{4}$

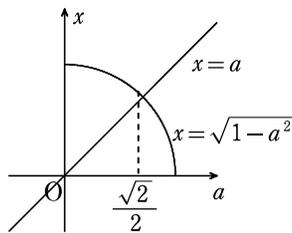
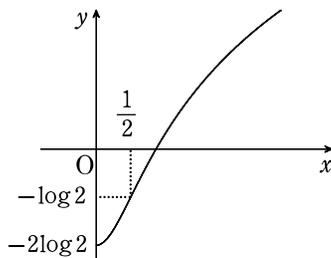
$a > 0$ より $a = \frac{\sqrt{4-\pi}}{2}$ となる。増減表は以下のようになる。

a	0	...	$\frac{\sqrt{4-\pi}}{2}$...
$S'(a)$		+	0	-
$S(a)$		↗	極大	↘

よって、 $S(a)$ は $a = \frac{\sqrt{4-\pi}}{2}$ で極大かつ最大となる。

$$\text{最大値} = S\left(\frac{\sqrt{4-\pi}}{2}\right) = -\frac{2}{3} \cdot \frac{(4-\pi)\sqrt{4-\pi}}{8} + \frac{4-\pi}{2} \cdot \frac{\sqrt{4-\pi}}{2}$$

$$= \left(-\frac{1}{12} + \frac{1}{4}\right)(4-\pi)\sqrt{4-\pi} = \frac{1}{6}(4-\pi)\sqrt{4-\pi}$$



3

すべての実数 x に対して $-\sqrt{2}a(\sin x + \cos x) + 4b\sin x \cos x - 4 \leq 0$ が成り立つような実数の組 (a, b) の存在する範囲を D とする。このとき、次の問いに答えよ。

問い(2)では に当てはまる適当な数値を解答欄に記入せよ。

(1) D を求め、 ab 平面上に図示せよ(ab 平面は解答用紙にある)。

(2) (a, b) が D 内を動くとき、 $\frac{b+1}{a+4}$ のとり得る値の範囲は

$\leq \frac{b+1}{a+4} \leq$ である。

(1) 略 (2) (カ) $-\frac{\sqrt{2}}{4}$ (キ) $\frac{3}{4}$

解説

(1) $-\sqrt{2}a(\sin x + \cos x) + 4b\sin x \cos x - 4 \leq 0 \dots ①$

$\sin x + \cos x = t$ とおくと $2\sin x \cos x = t^2 - 1$ となるので、①は

$-\sqrt{2}at + 2b(t^2 - 1) - 4 \leq 0 \Leftrightarrow 2bt^2 - \sqrt{2}at - 2b - 4 \leq 0 \dots ②$

となる。ここで、 $t = \sqrt{2}\sin\left(x + \frac{\pi}{4}\right)$ だから、 x が全ての実数を動くとき、

$-\sqrt{2} \leq t \leq \sqrt{2} \dots ③$

である。つまり、③の範囲で常に②が成り立つ条件を考えれば良い。

(ア) $b = 0$ の時。

$② \Leftrightarrow \sqrt{2}at + 4 \geq 0 \Leftrightarrow at + 2\sqrt{2} \geq 0$

$g(t) = at + 2\sqrt{2}$ とおくと、③の範囲で常に $g(t) \geq 0$ となる条件は

$g(\sqrt{2}) \geq 0$ かつ $g(-\sqrt{2}) \geq 0$ だから

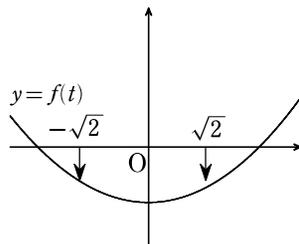
$-2 \leq a \leq 2$

(イ) $b > 0$ の時。

②を $2b > 0$ で割ると

$t^2 - \frac{a}{\sqrt{2}b}t - 1 - \frac{2}{b} \leq 0 \dots ④$

となる。 $f(t) = t^2 - \frac{a}{\sqrt{2}b}t - 1 - \frac{2}{b}$ とおく。



③の範囲で常に④が成り立てばよいので、求める条件は

$f(\sqrt{2}) \leq 0$ かつ $f(-\sqrt{2}) \leq 0$

である(右上図参照)。即ち、

$b \leq a + 2$ かつ $b \leq -a + 2$

(ウ) $b < 0$ の時。

②を $2b < 0$ で割ると

$t^2 - \frac{a}{\sqrt{2}b}t - 1 - \frac{2}{b} \geq 0 \dots ⑤$

となる。 $f(t) = \left(t - \frac{a}{2\sqrt{2}b}\right)^2 - \frac{a^2}{8b^2} - 1 - \frac{2}{b}$ なので、軸は $t = \frac{a}{2\sqrt{2}b}$ となる。

(i) $t = \frac{a}{2\sqrt{2}b} \leq -\sqrt{2} \Leftrightarrow a \geq -4b \Leftrightarrow b \geq -\frac{1}{4}a$ の時

③の範囲での $f(t)$ の最小値は $f(-\sqrt{2})$ なので、求める条件は

$f(-\sqrt{2}) \geq 0 \Leftrightarrow b \leq -a + 2$

(ii) $t = \frac{a}{2\sqrt{2}b} \geq \sqrt{2} \Leftrightarrow a \leq 4b \Leftrightarrow b \geq \frac{1}{4}a$ の時

③の範囲での $f(t)$ の最小値は $f(\sqrt{2})$ なので、求める条件は

$f(\sqrt{2}) \geq 0 \Leftrightarrow b \leq a + 2$

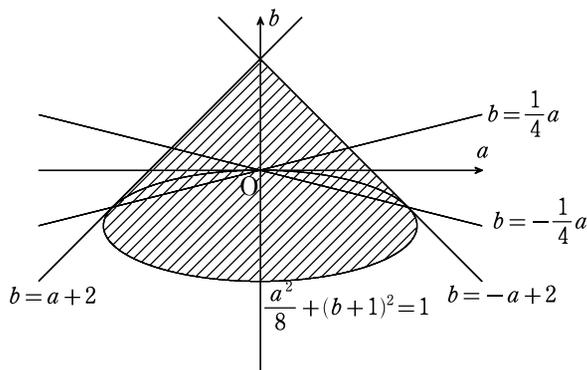
(iii) $-\sqrt{2} \leq \frac{a}{2\sqrt{2}b} \leq \sqrt{2} \Leftrightarrow -4b \geq a \geq 4b \Leftrightarrow b \leq -\frac{1}{4}a$ かつ $b \leq \frac{1}{4}a$ の時

③の範囲での $f(t)$ の最小値は $f\left(\frac{a}{2\sqrt{2}b}\right)$ なので、求める条件は

$f\left(\frac{a}{2\sqrt{2}b}\right) \geq 0 \Leftrightarrow -\frac{a^2}{8b^2} - 1 - \frac{2}{b} \geq 0 \Leftrightarrow -a - a^2 - 8b^2 - 16b \geq 0$

$\Leftrightarrow a^2 + 8(b+1)^2 \leq 8 \Leftrightarrow \frac{a^2}{8} + (b+1)^2 \leq 1$

以上より求める範囲は図の斜線部分境界は全て含む。



(2) $\frac{b+1}{a+4} = k$ とおく。 $A(-4, -1), P(a, b)$ とおくと、 k は AP の傾きを表す。

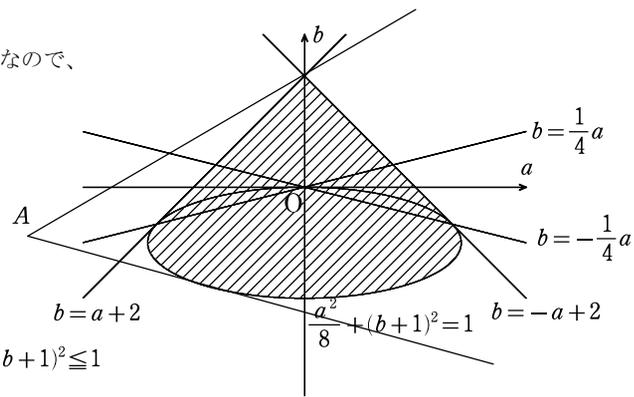
k のとり得る範囲は領域と直線 $b+1 = k(a+4)$ が交わる条件と同値である。

【最大】

k が最大となるのは

直線 AP が $(0, 2)$ を通る時なので、

$k = \frac{2+1}{0+4} = \frac{3}{4}$



【最小】

k が最小となるのは

直線 AP が楕円： $\frac{a^2}{8} + (b+1)^2 \leq 1$

$\frac{a^2}{8} + (b+1)^2 = 1$ と $b+1 = k(a+4)$ を連立すると

$\frac{a^2}{8} + k^2(a+4)^2 = 1 \Leftrightarrow a^2 + 8k^2(a+4)^2 = 8 \Leftrightarrow (8k^2+1)a^2 + 64k^2a + 128k^2 - 8 = 0$

$\frac{D}{4} = 32^2k^4 - (8k^2+1)(128k^2-8) = 0$

$\Leftrightarrow -128k^2 + 64k^2 + 8 = 0 \Leftrightarrow 64k^2 = 8 \Leftrightarrow k^2 = \frac{1}{8} \Leftrightarrow k = \pm\sqrt{\frac{1}{8}} = \pm\frac{\sqrt{2}}{4}$

$k < 0$ より $k = -\frac{\sqrt{2}}{4}$

以上より、 $-\frac{\sqrt{2}}{4} \leq \frac{b+1}{a+4} \leq \frac{3}{4}$

4

Oを原点とするxyz空間内の平面上に平行四辺形ABCDがあり、3点B, C, Dの座標はB(1, 0, 0), C(0, $\sqrt{3}$, 0), D(0, 0, d) (d > 0)である。

辺BCの中点をM, CDを5:1に内分する点をN, BNとDMの交点をGとするとき、次の問いに答えよ。問い(1)では にあてはまる適切な数値を解答欄に記入せよ。

(1) (i) \vec{AG} を \vec{AB} , \vec{AD} を用いて表すと $\vec{AG} = \text{(ク)}\vec{AB} + \text{(ケ)}\vec{AD}$ である。

(ii) $\angle DAG = \frac{\pi}{6}$ とするとき、点Aの座標は , ,), dの値は

(2) A, dは(1)で求めた座標, 値とする。平行四辺形ABCDを底面とする四角錐O-ABCDをz軸の周りに1回転させてできる立体の体積を求めよ。

(1) (ク, ケ) $\frac{2}{7}, \frac{6}{7}$ (コ, サ, シ) 1, $-\sqrt{3}, 3\sqrt{2}$ (ス) $3\sqrt{2}$ (2) $7\sqrt{2}\pi$

解説

$$\vec{AD} = \vec{BC} = \vec{OC} - \vec{OB} = (-1, \sqrt{3}, 0)$$

$$\vec{AB} = \vec{DC} = \vec{OC} - \vec{OD} = (0, \sqrt{3}, -d)$$

である。また、

$$|\vec{AD}| = \sqrt{1+3} = 2$$

$$|\vec{AB}| = \sqrt{3+d^2}$$

$$\vec{AB} \cdot \vec{AD} = 3$$

である。また、

$$\begin{aligned} \vec{OA} &= \vec{OD} + \vec{DA} = \vec{OD} - \vec{AD} \\ &= (1, -\sqrt{3}, d) \end{aligned}$$

となる。

(1)(i) 三角形DMCと直線BNでメネラウスの定理を用いると

$$\frac{DG}{GM} \cdot \frac{MB}{BC} \cdot \frac{CN}{ND} = 1 \Leftrightarrow \frac{DG}{GM} \cdot \frac{1}{2} \cdot \frac{5}{1} = 1 \Leftrightarrow \frac{DG}{GM} = \frac{2}{5}$$

よって、DG:GM=2:5

$$\vec{AG} = \frac{5}{2+5}\vec{AD} + \frac{2}{2+5}\vec{AM} = \frac{5}{7}\vec{AD} + \frac{2}{7}(\vec{AB} + \frac{1}{2}\vec{AD}) = \frac{2}{7}\vec{AB} + \frac{6}{7}\vec{AD}$$

(ii) $\vec{AG}' = \vec{AB} + 3\vec{AD}$ ($= \frac{7}{2}\vec{AG}$) とおく。

$$\begin{aligned} |\vec{AG}'|^2 &= |\vec{AB} + 3\vec{AD}|^2 = |\vec{AB}|^2 + 6\vec{AB} \cdot \vec{AD} + 9|\vec{AD}|^2 \\ &= 3 + d^2 + 6 \cdot 3 + 9 \cdot 4 = d^2 + 57 \end{aligned}$$

$$\vec{AG}' \cdot \vec{AD} = (\vec{AB} + 3\vec{AD}) \cdot \vec{AD} = \vec{AB} \cdot \vec{AD} + 3|\vec{AD}|^2 = 3 + 3 \cdot 4 = 15$$

なので、 $\angle DAG = \angle DAG' = \frac{\pi}{6}$ より

$$\vec{AG}' \cdot \vec{AD} = |\vec{AG}'||\vec{AD}|\cos \frac{\pi}{6} \Leftrightarrow 15 = \sqrt{d^2 + 57} \cdot 2 \cdot \frac{\sqrt{3}}{2} = \sqrt{3(d^2 + 57)}$$

$$\Leftrightarrow 225 = 3(d^2 + 57) \Leftrightarrow 75 = d^2 + 57 \Leftrightarrow d^2 = 18$$

d > 0 より、d = $\sqrt{18} = 3\sqrt{2}$ よって、A(1, $-\sqrt{3}, 3\sqrt{2}$)

(2) R(0, 0, Z)とする。

AB上でz座標がZの点をP,

CD上でz座標がZの点をQとする。

$$PR = t, QR = s$$

とおく。DR:RQ=DO:OSより

$$3\sqrt{2} - Z : s = 3\sqrt{2} : \sqrt{3}$$

$$\Leftrightarrow \sqrt{3}(3\sqrt{2} - Z) = 3\sqrt{2}s$$

$$\Leftrightarrow s = \sqrt{3} - \frac{1}{\sqrt{6}}Z$$

P(X, Y, Z)とし $\vec{OP} = x\vec{OA} + (1-x)\vec{OB}$ とおく。

$$\vec{OP} = x(1, -\sqrt{3}, 3\sqrt{2}) + (1-x)(1, 0, 0) = (1, -\sqrt{3}x, 3\sqrt{2}x)$$

よって、

$$X=1, Y=-\sqrt{3}x, Z=3\sqrt{2}x \Leftrightarrow x = \frac{1}{3\sqrt{2}}Z \quad \text{ゆえに} \quad Y = \frac{-1}{\sqrt{6}}Z$$

よってP($1, \frac{-1}{\sqrt{6}}Z, Z$)ゆえに $t = \sqrt{1 + \frac{1}{6}Z^2}$ となる。

ここで、s=tを解くと

$$\sqrt{3} - \frac{1}{\sqrt{6}}Z = \sqrt{1 + \frac{1}{6}Z^2} \Leftrightarrow 3 - \sqrt{2}Z + \frac{1}{6}Z^2 = 1 + \frac{1}{6}Z^2$$

$$\Leftrightarrow \sqrt{2}Z = 2 \Leftrightarrow Z = \sqrt{2}$$

となる。よって、 $0 < Z < \sqrt{2}$ のとき $s > t$ で $\sqrt{2} < Z < 3\sqrt{2}$ のとき $s < t$ であることに注意すると、求める立体の体積は

$$V = \pi \int_0^{\sqrt{2}} s^2 dZ + \pi \int_{\sqrt{2}}^{3\sqrt{2}} t^2 dZ$$

となる。

$$\int_0^{\sqrt{2}} s^2 dZ = \int_0^{\sqrt{2}} \left(3 - \sqrt{2}Z + \frac{1}{6}Z^2\right) dZ = \left[3Z - \frac{\sqrt{2}}{2}Z^2 + \frac{1}{18}Z^3\right]_0^{\sqrt{2}} = \frac{19\sqrt{2}}{9}$$

$$\int_{\sqrt{2}}^{3\sqrt{2}} t^2 dZ = \int_{\sqrt{2}}^{3\sqrt{2}} \left(1 + \frac{1}{6}Z^2\right) dZ = \left[Z + \frac{1}{18}Z^3\right]_{\sqrt{2}}^{3\sqrt{2}} = \frac{44\sqrt{2}}{9}$$

よって、

$$V = \frac{19\sqrt{2}}{9}\pi + \frac{44\sqrt{2}}{9}\pi = 7\sqrt{2}\pi$$

5

【講評】

昨年同様、大問数が4題で出題分野は

1 (1) 確率(数学A) (2) 一次変換(数学C)

2 曲線の概計, 面積, 面積の最大(数学III)

3 領域図ならびに領域における最大最小(数学II 数学C)

4 空間ベクトルと四角錐の回転体の体積(数学B 数学III)

である。

計算量と難易度は共に昨年よりUPしていると言える。

1の小問をしっかり解き、グラフと面積というおきまり名問題2を攻略し、4の(1)を確実に得点するあたりがボーダーかと。

3の(1)は「スライムの絵」がかければ勝ちだが $b < 0$ の時の考察はなかなかやりにくい。

4の(2)は空間における直線の回転問題で、よくあると言えばよくあるが、z軸とCDの距離、ABの距離をきちんとはからなければならないのである。

これらは部分点ねらいで、65%あたりが合格のラインと思われる。

解説

